
高塚楓は酷いヤツ

黒猫ふろー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

高塚楓は酷いヤツ

【Zコード】

N8438E

【作者名】

黒猫ふろー

【あらすじ】

高塚楓は、
たかつかかえで
酷いヤツだ。

(前書き)

初めての投稿です。まだ勝手がわからず、だぐだぐしていますが、よろしくお願いします。

彼、たかつかかえで高塚楓はひどいヤツだ。

顔立ちは悪いほうではないだろうし、背もそこにある。口数は少ないせいでもクラスで目立つ存在ではないものの、勉強だって、スポーツだって、実はそこそこできる。

何がそこまで私に「ひどいヤツ」と言わしめるかといふと、一重にヤツの行動にあると答えよう。

例えばこの間の金曜日のことだ。

同じクラスのリナが、社会科係として、次の時間の地理の資料を取りにいった。しかし、その日の運ぶものは、いつものプリントの束に加えて世界地図（黒板に掛ける大きいもの）や何かの模型など、量が尋常なく多かつたらしい。

誰か手伝いを頼もうにも時間がなかつたりナは、仕方なくひとり運ぼうとした。

荷物を持ってなんとか教室まで向かっていると、不意にヤツが声を掛けできたらしい。

「手伝うよ」

一言。まったく、愛想のないやつだ。後ろから声をかけられて、最初リナは何がなんだかわからなかつたみたいだが、気づいたときには手のうえにあつた荷物が軽くなつていたんだそうだ。

ヤツはそのままリナと会話を交わすことなく、すたすたと歩いて普通に教室に入つていった。

リナが教室に着いた時には、ヤツは何事もなかつたかのように本を読んでいたらしい。

「高塚君、ありがとう」

授業が終わって後からリナがヤツにお礼を言ひに行くと、ヤツは、少し考えるようなそぶりを見せて、「ああ、そのことか」と言つてのけた。

私に言わせてみれば、ヤツは声を掛けられるまで、手伝つたことなんかすっかり忘れていたにちがいない。

高塚楓は良いヤツだ。

さりげない優しさを、本当にさりげなくやつてのける。

しかもヤツはそれを当たり前のことにやつてのけるため、ヤツ自身は特別なことをやつているという自覚がない。

4組の青木さんは、下校途中に自転車のチェーンが外れて困っているところをヤツに助けてもらつたらしく。

同中のタカちゃんは、受験の日、消しゴムを無くして泣きやうになつていたら、ヤツが消しゴムを貸してくれたと言つていて。

一つ下の祐輔は、部活中捻挫をしたとき、ヤツに肩を貸してもらって保健室まで行つていた。

ヤツの優しさは男女を問わず、万物共通であるようだ。私が知つているだけで少なくとも3人以上はヤツに恩義を感じていて。

ここまでくると、逆にヤツは、自分から困つてる人を引き付けてしまう厄介な体質の持ち主なんぢやないかと、最近密かに疑つてゐる。

そんなヤツと私は、小学校、中学校、高校とすべて同じという関係である。世間一般でいえば“幼なじみ”といつものに当たはまるかもしれないが、私も、おそらくヤツも、お互いそういう感覚はない。私とヤツとは家が近い。都心でもなければ政令指定都市にもなつて

いない一地方都市に住む私達にとって、余程のことがないかぎり、大体は近くにある小学校、中学校に通うのが普通だ。極自然に近くの小・中学校に進んだだけで、別に特別なことではないのだ。たまたま高校が一緒になつただけだ。

ヤツと私は小学校1・2年、5・6年、中学校の3年、そして今、高校2年と同じクラスになつてゐるが、小さなころはともかく、この数年はあまり話しあることもない。

以前、『幼なじみ』という言葉を辞書で引いたら『幼いとき、仲良く遊んだ人』という言葉がでていた。

私とヤツの間柄は、これに当てはめていいのだろうか。わからなくて、少々悩んでしまった。

言葉をかわす機会はすくなくとも、同じクラスにいれば当然、少しは姿が目に入るものだ。

そしてそれは、……私がヤツを意識するようになつてから、余計に多くなつてゐる。

高塚楓は良いヤツだ。

顔立ちは悪いほうではないだらうし、背もそこそこある。

高塚楓は良いヤツだ。

口数は少ないせいでクラスで目立つ存在ではないものの、勉強だって、スポーツだって、実はそこそこできる。

高塚楓は良いヤツだ。

そつぱない優しさを、本当にそつぱなくやつてのせる。

高塚楓は良いヤツだ。

そのため、ヤツの知らないうちに、ヤツに好意をもつ
えば私がみたいな 女の子を増やしてしまつかもしれない。 例

高塚楓は良いヤツだ。

そりが悪いことに、ヤツは当たり前のよつきをいつてのけるた
め、ヤツ自身は特別なことをやつているところ自覚がない。

高塚楓は良いヤツだ。

だから、……告白したくても勇気がだせず、機会を今か今かと待ち
構えている私を、余計にやきもきさせてしまつのだ。

： 高塚楓は、酷いヤツだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8438e/>

高塚楓は酷いヤツ

2010年10月10日06時43分発行